

関東ブロック会議雑感

三浦市立病院 総病院長

小澤 幸弘

もう夏の服装でもよいぐらいの5月の暑い一日、関東ブロック会議が開かれた。毎年のこととはいえ、全国7つのブロックの先陣を切った開催であるとともに令和になって最初の開催となり、記念すべき会議となったと思っているのは私だけかもしれない。

神奈川県が担当ではあったが、横浜を通り越して地元の横須賀のホテルで開催させてもらった。皆さんには、ヨコスカといえば、「これっさり、これっさり、もう、これっさりですか……」と歌った山口百恵の横須賀ストーリーとか、ダウントウンブギウギバンドが「あんた、あの子の何なのさ……」といった港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカといったことぐらいしか馴染みがないかもしれない。その京浜急行汐入駅前にあるメルキュールホテルからは米海軍横須賀基地が見渡せる。会議のあった10日後にはあのトランプ米合衆国大統領が海上自衛隊の護衛艦「かが」に安倍首相とともに乗艦し、その後向かいに停泊している米軍強襲揚陸艦「ワズプ」に乗艦したという歴史的な一幕をちょうど見渡せるホテルである。そんな歴史の巡り合わせがこのホテルにはあるらしい。

地方ブロック会議における今年の共通議題は昨年を引き続いて

「医師の働き方改革について」であった。ホテルの前の横須賀湾沿いにはヴェルニー公園が広がり、JR横須賀駅につながっている。そのフランソワ・レオンス・ヴェルニーとは、日本初の遣米使節を務めた小栗上野介忠順とともに横須賀製鉄所(のちの横須賀造船所)を作り上げたフランス人である。この造船所は日本の近代化のルーツと言えるが、また、幕府時代の横須賀製鉄所ではフランス人によって労働管理がなされており、西洋式の時計台を備えた製鋼所が作られ、その時計を見ながら労働時間が管理されていた。そして、日曜日が休みの日とされていた。江戸時代の日本では、働く時間は夜明けから日没までで、一週間や曜日の概念もなかった。また、多くのフランス人技師や医師、教師が働いており、月給制や西洋式の労務管理、健康管理が取り入れられ、まさにここ横須賀は、日本でいち早く働き方改革が実践されたところと言える。そんな横須賀で「医師の働き方改革」について議論できたことは何かの因縁を感じざるを得ない。

遡って西暦1853年、マシュー・ガルブレイス・ペリー提督は米合衆国大統領の親書を携えて横須賀の浦賀沖に現れ、久里浜の海岸に上陸を果たした。その久里浜にあ

るペリー公園には日本の初代内閣総理大臣である伊藤博文の書となる巨大な北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑が建っている。翌西暦1854年、日米和親条約が締結され、215年もの長い鎖国時代の殻を破り日本は開国を果たす。そして、日本の近代化は全国に広がっていくのである。その後、横浜にあった海軍の施設や軍人を取り仕切る鎮守府が移され横須賀鎮守府となった。それとともに横須賀造船所も横須賀海軍工廠となり、横須賀は軍港の町となっていく。そして、日本海軍連合艦隊総司令官の東郷平八郎は日本海海戦の勝利にあたって、小栗上野介忠順が日本のために横須賀造船所を造ってくれたおかげであるとその功績を称えた。その日本海軍連合艦隊の旗艦である記念艦三笠は「……ドン突きの三笠公園」に停泊しており艦内を見学することができる。今やあの小栗とヴェルニーが作り上げた横須賀造船所1号ドックは、米海軍横須賀基地内にあり、いまだ現役で働いているそうだ。関東ブロック会議を機会に



地元横須賀を振り返ってみたが、横須賀は日本の近代化のルーツであり、新たな時代への挑戦を続けてきた地であることを知った。今

や喫緊の課題である「医師の働き方改革」を成し遂げるためには、私たち医師の意識改革がなされなければならない。まさに新たな時

代への医療改革が成し遂げられなければならないのである。